

# 事業仕分けで削減された 芸術・文化・スポーツ事業の影響はこれから起こる。 物語を語る

平成22年4月1日付 上毛新聞から

## 群響助成金16%減

芸術支援の独法が新年度 事業仕分け影響マイナス1700万

群馬交響楽団の2010年度の助成金が16%削減されることが、31日までに分かった。昨年の行政刷新会議による事業仕分けで全国の芸術、文化団体を支援する国の補助金が縮小しており、その影響を受けた格好。内示額は09年度から約1700万円減少した8800万円。新型インフルエンザの影響で移動音楽教室の中止が相次ぎ、09年度予算は当初予定より約1000万円の減収となる見込み。助成金カットは厳しい楽団運営に追い打ちをかけそうだ。

削減されるのは、独立行政法人日本芸術文化振興会が行う芸術創造活動特別推進事業の助成金。事業仕分けで見直しの対象になっていた。

<中略>

県文化振興課は「上毛カルタ、尾瀬と並んで群響は本県独自の文化。教育や音楽振興のために最低限の公的支援は必要」としている。

群響を応援する県民の会は事業仕分けの発表後、県外のオーケストラファンと共に文化庁に反対意見を送った。小野善平会長は「鳩山政権から『モノから人』を方針に打ち出したのだから、音楽で心を育てる視点に立ってほしかった。地方の実情を見ず、一律に削減されては芸術文化が成り立たなくなる」と話した。

文化庁によると、同庁のホームページ上で昨年12月中旬まで意見を募集したところ、同事業の見直しについて全国から約11万件が寄せられ、大半が見直しに反対だった。

事業仕分けの影響が分かりやすい形で出てきました。

群馬交響楽団といえば、その草創期、今井正監督により映画化されている。

1955年映画。出演は、岸恵子 岡田英次 小林佳樹 など。

群響ホームページに「県内の小学校へ出かけて演奏する「移動音楽教室」、高校生対象の鑑賞会「芸術教室」など、学校行事にも積極的に関わり、県内の文化・教育活動の一翼を担っています。」とあるように、私も小学生のころ学校で見た記憶があります。こういった活動こそが重要で、これによって音楽に興味を持った人も少なからずいる。何よりも「草の根運動」的に裾野を広げていくことが肝要で、そこから本格的ファンも出てきて、結果的に芸術家を支えていくことになるのだ。

事業仕分けはこういった芽を摘んでいった悪行なんですよ。

本当に、芸術・音楽関係者はもっともっと怒っていいと思うのだが……。

事業仕分けによって削減された芸術文化・科学技術予算・スポーツ関連の予算はこうして、じわじわと波紋を広げていき、徹底的な悪影響を及ぼしていくのは、実はこれからなのです。文化・芸術・スポーツが荒廃したときになって、はじめて「あれは民主党の悪行だった」と気づいたときには、もう遅いのです。

群響の件はほんの一例でしかない。

関連記事 「日本」「文化」「科学技術」、そして「亡国への道」、「市川団十郎」と「三島由紀夫」と「井上馨」

そんな中、こんな記事が、

[http://news.biglobe.ne.jp/entertainment/630/ssp\\_100331\\_6307016967.html](http://news.biglobe.ne.jp/entertainment/630/ssp_100331_6307016967.html)

3月31日付 サンケイスポーツ から。

**仕分けるな！たけし、蓮舫議員にダメ出し**

タレント、ビートたけし（63）がテレビ朝日系特番で、事業仕分けの削減対象となった宇宙航空研究開発 機構（JAXA）を運営する茨城・筑波宇宙センターを取材し、予算削減に猛反対した。スーパーコンピューターの開発予算作業でNOを突きつけた事業仕分け 人、蓮舫参院議員（42）に「タレント時代、オレと熱湯風呂入ってたのに、何言ってんだ。研究開発に金使わない国はダメになる」と物申した！

「どうも、宇宙飛行士の野口五郎です」。宇宙服でおどけるたけしが、宇宙開発事業の予算削減反対を叫んだ。

4月5日放送の「ビートたけし のTVタックル 直撃3時間SP」（後7・0）の企画で訪ねた場所は、JAXAの筑波宇宙センター。「おいら、明大理工学部出身だから宇宙とかロケットが 大好きなんだよ。予算削減するんじゃない、あと1000億つけろ！って言ってやる」と意気込んだ。

昨年、事業仕分けの削減対象となった JAXAの予算が本当にムダなのかを見極めるために、たけしはさまざまな施設を体験。ロシア・ソユーズの帰還カプセルの展示品や、宇宙ステーション用に日本が初めて作った有人施設「きぼう」の運用管制室などを見て歩いた。

たけしは「やっぱり、科学の最先端だな」と再確認。昨年11月、次世代スーパーコンピューターの開発予算を検討する際、世界一を目指す日本の研究に対し、「2位ではダメなのか」と発言した蓮舫議員に、痛烈なダメ出しだ。

女仕分け人がタレントだった1990年から2年間、バラエティー番組「スーパーJOCKEY」でたけしのアシスタントを務めた仲だけに、黙っていられなかった。

「当時、蓮舫はオレと一緒に熱湯風呂に水着着て入ってたのに、何言ってんだ！ スーツに襟立てて、スナックのママみたいな格好して」と茶目っ気たっぷりにほえた。

続けて、真剣なまなざしで「スーパーコンピューターに限らず、なんでも1位にならなきゃ金もうけできないじゃない。2位になったら他から買わなきゃいけないぜ。研究開発に金使わない国はダメになる」と熱弁。「仕分けしてもいいけど、やっちゃいけないことはダメ。知らないことには口出すなっていうのはあるよ」と語気を強めた。

ただ、最後はたけしらしく「鳩山首相のお母さん、1000万円でも いいから宇宙事業の予算にちょうだい」と“子ども手当”を懇願していた。

まったくこの一点だけを取ってみても、この政権がいかにヒドイものだ、というのがよく分かる。

**何となく関連記事理系女子から宇宙飛行士へ。そして宇宙で日本文化を語れ！**